

価値観の転換期に贈る心の映画「渾身」⑦

錦織監督

映画の現場から



隠岐の島を舞台にした映画「渾身」は、おかげさまでエンドロールだけを残し、ついに完成した。本編は音楽や効果音を含め全て出来上がり、これから全国の協賛企業やタイアップしていただく関係者の方々のクレジットをエンドロールに追加するだけとなった。ご協力いただいた隠岐の島の多くの皆さんにあらためてお礼申し上げたい。完成し次第、隠岐の皆さんをはじめ、多くの皆さんにお見せできる日を今から楽しみにしている。

隠岐の風景や海産物などの製品の素晴らしさは今までも数多く紹介されているが、映画「渾身」は「隠岐特有の人情」「隠岐特有の風土」を伝えられたい、と思いつきながら撮った。おいしいもの、美しい風景、地方ならではの人の良さ、人々との触れ合いや絆などは全国各地、いや世界各地に存在している。その中でも、わが古里は特別なところだと、この連載で何度も書いてきた。隠岐の島はそんなキーワードがかすむほど特別なところだ

「白い船」「うん、何？」「RAILWAYS」

錦織良成監督最新作

日本海に浮かぶ宝島「隠岐諸島」を舞台に綴る家族の絆の物語



伊藤 歩 青柳 翔
 脚本・監督 高橋あゆむ 監修 高橋あゆむ 脚本協力 伊藤 歩
 主演 中村謙亮 / 山本舞鳥 / 山本舞鳥 / 山本舞鳥 / 山本舞鳥
 監督 伊藤 歩 / 青柳 翔 / 伊藤 歩
 制作 伊藤 歩 / 青柳 翔 / 伊藤 歩 / 青柳 翔 / 伊藤 歩 / 青柳 翔



価値観の転換期、全世代に贈る心の映画

隠岐は世界的な名勝地

●○● 27

と思う。隠岐は他の地域にない潜在的な財産が豊富な宝島であり、世界的な名勝地である。

映画「白い船」「うん、何？」「RAILWAYS」で描いた、そこに住む人々の営みや風景は、地元の人々にとってはその当たり前のこととして映った。実はその当たり前前かが日本から失われつつある。隣の人はもちろん、町内の家族構成やご主人の仕事などを近所みんなが知っていた時代、それは東京でも当たり前だった。そんな時代には仕事を休んでも祭りが優先という若者が地域を支えていた。人々がつましやかに生きていた江戸時代などは、落語にそんな普通人々の暮らしが描かれている。

メディアを通して、華やかで刺激的なカルチャーが私たちの目に飛び込んでくるが、世界の中で勝者が敗者をおもんばかる文化は少ない。勝ち負けをはっきりさせ、弱肉強食が当たり前の世界では、人種や宗教の対立で毎日のように人々の尊い血が流されている。古代から私たちの先祖は島国ならではのルールを編み出し、四季折々の恩恵に感謝しながら世界的にも特有の文化を育んできた。相手の違いを認めながら融合していった歴史からも、日本文化はこれからの世界の指針となるほどの穏やかな文化だと思う。

私たちはそれを誇りに思うし、若い人たちにも心からそれを感じてもらいたい。今回も当たり前の隠岐の人々を描いたが、全国的には当たり前でない特別な作品になったと自負している。隠岐の映画が、日本人でよかった、と気づいてもらえるまず一步になればいいと思っている。

（錦織良成・映画監督）

第2、4金曜掲載

映画「渾身」山陰特別版ポスター